

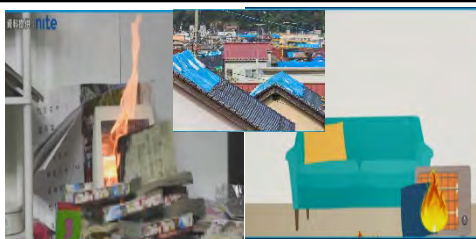
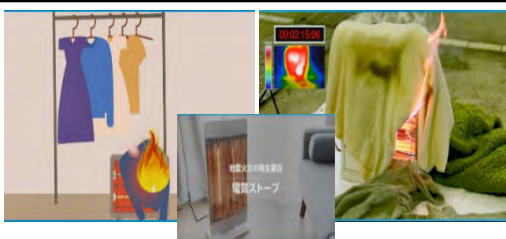
消防庁では、広く国民に地震発生時における出火防止対策等を周知するため、火災予防啓発映像及びリーフレットを作成（令和２年６月３０日）。

【背景】

大規模地震発生時には、多くの地点で火災が発生し、
消防力の不足に伴う、住宅密集地等における火災の大規模化が懸念。

【内 容】

- 地震火災発生のメカニズム等を過去の事例をもとに紹介し、対策例として、家具等の転倒防止措置、感震ブレーカーの設置、安全装置付きの暖房器具の使用など、日常での地震火災対策について周知。
- 地震火災対策に併せて、近年、風水害発生時においても発生が懸念されている通電火災についても対策を周知。



【地震火災対策】

【通電火災対策】

【様々な対策と火災時の対応】

【チェックポイントを示したリーフレット】

消防庁HP⇒ <https://www.fdma.go.jp/mission/prevention/suisin/post-2.html>

地震火災を防ぐポイント

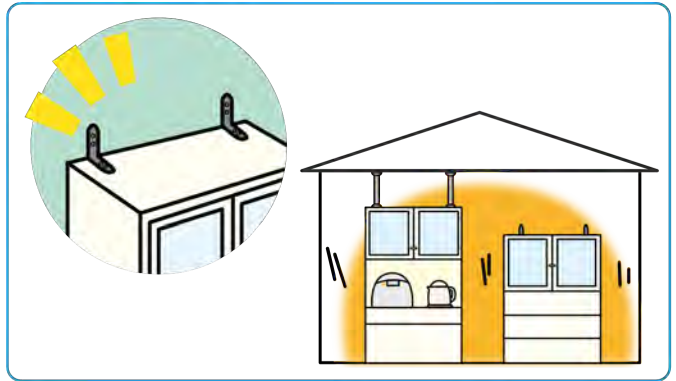
地震火災対策きちんと出来ていますか？

事前の対策

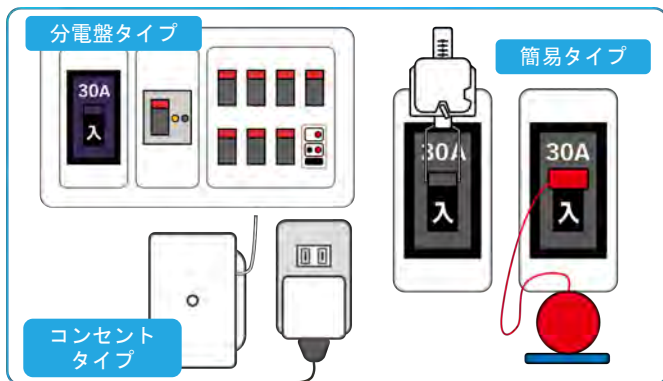
☐ 住まいの耐震性を確保しましょう



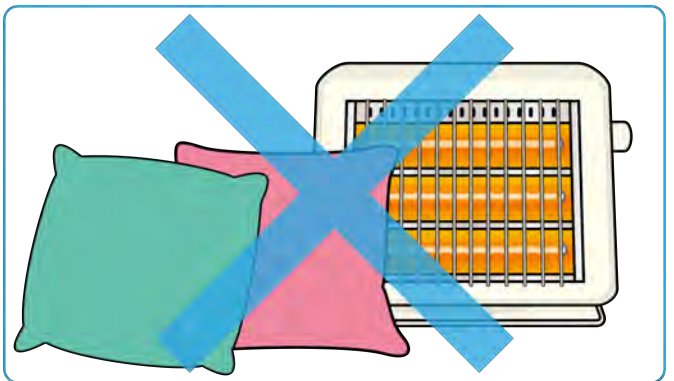
☐ 家具等の転倒防止対策（固定）を行いましょう



☐ 感震ブレーカーを設置しましょう



☐ ストープ等の暖房機器の周辺は整理整頓し、可燃物を近くに置かないようにしましょう



☐ 住宅用消火器等を設置し使用方法について確認しましょう



☐ 住宅用火災警報器を設置しましょう

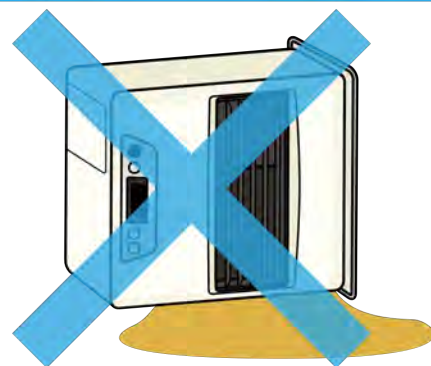
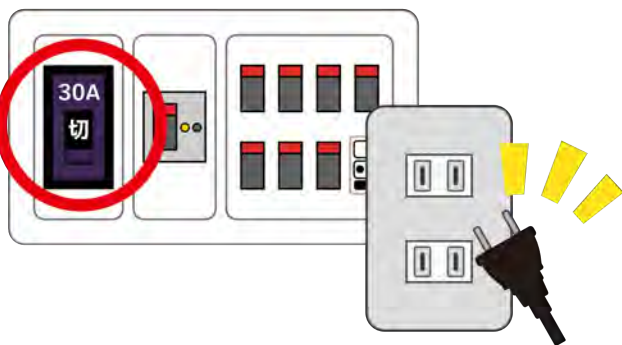


※交換の際は連動型住宅用火災警報器などの付加的な機能を併せ持つ機器へ交換しましょう。
※設置場所については市町村条例で定められています。

地震直後の行動

停電中は電気器具のスイッチを切るとともに、電源プラグをコンセントから抜きましょう
避難するときはブレーカーを落としましょう

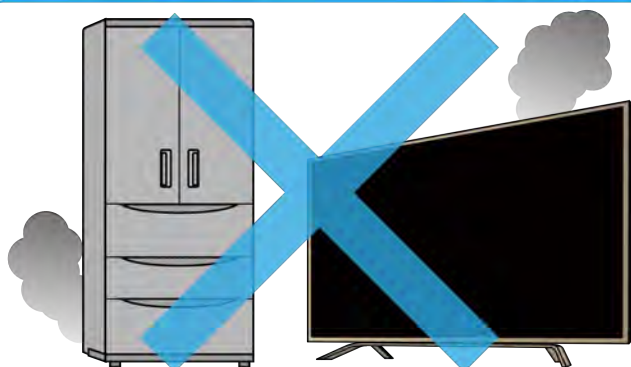
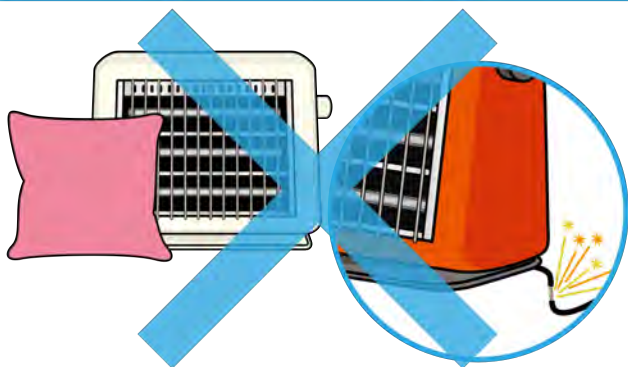
石油ストーブや石油ファンヒーターからの油漏れの有無を確認しましょう



地震発生からしばらくして（電気やガスの復旧、避難からもどったら）

ガス機器、電気器具及び石油器具の使用を再開するときは、機器に破損がないこと、近くに燃えやすいものがないことを確認しましょう

再通电後は、しばらく電気器具に異常がないか注意を払いましょう（煙、におい）



日頃からの対策

消防団や自主防災組織等へ参加しましょう

地域の防災訓練へ参加するなどし、発災時の対応要領の習熟を図りましょう



お問い合わせ先